

令和7年度学校自己評価表					米子松蔭高等学校	
教育目標	【School Mission（建学の精神）】 実社会に貢献してゆく人間の育成				今年度の 重点目標	1. 一人ひとりの生徒への誠実な対応 2. 教員の指導力向上 3. 学習指導要領への対応 4. 国際教育の推進 5. 校務の合理化
年度当初					中間評価	
評価項目	具体項目	現状	目標（年度末目指す姿）	目的達成のための方策	評価	経過・達成状況・改善方策
1 一人ひとりの生徒への誠実な対応	環境整備の徹底と防災対策の充実	日々の清掃は比較的行き届いていると思われるが、歴史ある校舎のため、修繕を要する箇所が見受けられる。定期的に防災訓練を行っている。	校舎の修繕を適宜行う。 自己の生命を守るとともに生徒同士が助け合える行動をとれる防災訓練を実施する。	学校内連携を図り、破損個所の速やかな修繕に努める。 火災、地震の避難訓練を実施し、災害時への対応を確	A	破損個所の修繕については申し出があった時点で早い段階で対応している。 1学期に火災訓練を実施。地震訓練も計画中である。 (12月実施予定)
	学校と保護者との協力関係の構築	保護者に定期的な学校行事への参加協力を頂いている。	行事への参加を通じ、学校生活を過ごす生徒の姿を見もらう。	三役会、総務委員会等を通じて保護者へ学校行事の参加協力を呼び掛ける。	A	学校行事の都度打ち合わせを行い、保護者に参加、協力してもらい生徒の様子を見ていただいている。
	基本的生活習慣・公共心の育成	社会生活においてのマナーやモラルが遵守できていない生徒に対して規範意識の育成が必要である。	規範意識の向上を目指す。 ルール・マナーを遵守する。	全教職員で共通理解を図り、少しでも気になることは声をかけ粘り強く指導を行う。	B	目まぐるしく変化する社会環境の中で生徒への対応指導については、丁寧に説明し理解を求めていくように努めている。
	様々な生活指導上の問題の防止	特にSNSに起因する問題行動が増加している。	情報モラル・リテラシーを育み自らの判断でトラブルを防止する。	生徒の安心・安全が確保できるよう関係機関の連携をしっかりと行うとともに、講演会を行いトラブル防止の啓発に努める。	B	iPad・スマートフォンは校内持ち込み可なので校内の使用については制限をし指導しているが、ルールを守りけじめをつけて利用することを徹底させたい。
	各部署と連携をと り、生徒の相談と支援の実施	支援が必要な生徒の増加、多様化に対し、学年部の協力を得ながら適切な教育相談・支援に務めている。	学校全体で理解を深め、適切な支援を行う。	切れ目のない支援のための引継ぎを行う。 適切なアセスメントを行う 学校内外の連携を行う。	B	中学校からの引継ぎと情報共有はスムーズに行えた。 月1回の支援会議などを通じて個々の生徒に合った適切な支援を引き続き検討・実施していく。
	学校行事等を通じて生徒の自主自律の精神を育てる	学校行事やイベントへの参加を通じて、生徒ひとりひとりが主体的に考え行動できる生徒会を目指す。また、生徒会だけでなく生徒全体が主体となるイベント開催を目指す。	学校行事の充実を図る。 生徒会活動の充実を図る。 部活動との連携を行う。	学校行事の開催に向けて早めに計画を立て、より良いイベントが実施できるよう準備する。 学校生活をより充実したものにするために、定期的に部会を開き、議論する。	A	松絳祭やスポーツ祭の運営や、70周年式典の司会等、生徒が主体となってイベントを実施することができた。今後も学校生活をより充実したものにするために、新生徒会執行部と議論を重ねたい。
	探究活動のより一層の推進を図る	多くの生徒の選択肢を増やし、自ら望んだ進路を選択するために、どう総合的な探究の時間を行っていくことが必要なのかを考えてきた。 また、教育目標の実現に当たっては総合的な探究の時間が重要な役割を果たすことを全教職員で理解することが欠かせないことを理解してきた。 年間の全体計画をはじめとする各種計画の作成、校外の支援者との連携のためにコーディネート役の機能を果たした。	「主体的・対話的で深い学び」興味関心のある探究活動により学ぶことの楽しさを実感することを目指す。 生徒が未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指す。	①課題の設定 ②情報の収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現 ①～④に従って他者と協働して主体的に取り組む学習活動にする。	B	年間計画に沿って各学年・クラスで探究活動を実施している。3年生は成果物を文化祭で発表した。2年生は3月の研修旅行を実りあるものになるよう活動中である。1年生は米子松蔭の魅力を校内外に発信できるように活動中である。
2 教員の指導力向上	授業評価の実施（年2回）	生徒による授業評価アンケートを継続的に実施しており、経年の分析結果を指導力向上に活用している。	評価結果をもとに、各々で授業を客観的に振り返りと共に、教科内で評価を把握、分析し、指導力の向上に繋げる。	全教員の年2回の授業評価アンケートを実施し、教科ごとの評価を校内で共有する。	B	1回目の授業評価アンケートを7月に、2回目の授業評価アンケートを12月に実施した。計画通りに進めており、1回目の分析結果を各自で振り返った。
	1人ひとりの可能性を最大限伸ばし、希望の進路を実現する	受験の形式が多様なため、生徒一人一人とコミュニケーションをとり、指導にあたる必要がある。また、高い目標を目指す生徒へのサポート体制を構築する必要がある。	すべての生徒を希望する進路決定させる。その中で、国公立大学や難関大学への合格者を多く輩出する。	BLEND等を有効活用し、担任、出願担当者、部長の間での連携を密にとり、生徒にとって最適な受験方法を提案し、サポートする。	B	現在までの出願準備は順調に進んでいる。今後も継続して生徒の進路実現のために尽力していく。就職試験では多様な要望に対応し成果も十分であった。
	体制を強化し進路実績を高める	進学希望者が増加しているため、教員一人あたりの受け持ち生徒数が増えている。  就職についても生徒の希望が多様化している。	多くの教員が志望理由書作成指導や小論文指導が出来る体制を構築する。 教員一人一人が専門性に優れた高度な進路指導を出来るようにする。	教員対象の小論文研修会の実施や、生徒対象の進路講演会等への参加を積極的に勧めるなど教員が学ぶ機会を設ける。 進路指導部会を開催し、進路指導について互いに研鑽する機会を設ける。	B	進路講演会へ参加する教員が増えてきている。今後も引き続き学ぶ機会を設けていきたい。
	生徒の人権意識を高め、思いやり・倫理観の育成	人権感覚が高く、自他の人権・権利を大切にできる生徒が多い一方、クラス・部活動で不適切な発言をする生徒もいる。	言葉・表現を大切にお互いの尊厳を認め合い、不適切な発言を許さない技能・態度を身につける。	毎日の学校生活は勿論、人権ホームルーム、人権講演会、言葉遣いアンケートを通して人権感覚を高める。	B	人権ホームルーム、人権講演会を通じ、生徒の人権感覚を高めようと努めた。言葉遣いアンケートも実施した（集計・啓発は今後の予定）。今後、生徒に身に付けさせたい人権上の資質・能力を明らかにし、啓発に向け取り組んでいきたい。
	募集活動につながる広報活動のさらなる強化	広報イベントを拡充し広く参加者を集めている。Web・SNS・印刷物等での情報発信を適切に行っている。広報活動を通じて学校ブランディングを行っている。	開かれた学校づくりの推進と学校ブランディングを行う。	広報イベントの拡充、Web・SNS・印刷物・制作物による情報発信、学校説明プレゼンテーションの改善を図る。	A	広報イベントを適切に行うことができた。SNS・印刷物・制作物による情報発信を適宜行うことができた。 生徒による広報活動を始動することができた。より効果的に広報・PRにつながるよう体制を作ることが課題である。
3 学習指導要領への対応	新しい学力観に立脚した教育の推進	生徒の思考力や問題解決能力を育むために必要となる学習内容や到達目標、評価方法を全教員で共有しながら学習指導を行っている。	情報交換を活発に行い、偏りのない教科横断的な学習指導を継続する。	相互に授業見学を行うなどして、効果的な指導方法を共有できる機会を増やす。	B	教員同士の相互授業見学により、活発な情報交換を行いながら学習指導を行っている。
4 国際教育の推進	グローバル人材の育成	現在、本校には海外からの留学生が在籍しており、他の生徒たちとの異文化交流が活発に行われている。昨年度には、澳門からの訪問生徒を受け入れ、本校生徒との交流を実施した。	生徒一人ひとりが豊かな語学力と高いコミュニケーション能力を身につけるとともに、異文化への理解を深める体験を重ねることにより、国際社会において主体的かつ協動的に行動できる人材の育成を目指す。	海外からの留学生の受け入れを推進し、生徒が日常的に異文化に触れられる環境を整備する。 留学生との共同学習や学校行事を通じて、互いの文化を理解し合う異文化交流の機会を充実させる。 海外の学校との連携を強化し、生徒の国際的な視野を育む。	A	中国およびニュージーランドからの留学生を受け入れるとともに、セブ島やアメリカ・バーモント州への短期留学、アメリカの学校との交換留学を実施するなど、双方向の国際交流を積極的に推進している。これらの取組を通して、生徒の異文化理解やコミュニケーション能力の向上が認められる。今後はオーストラリア・メルボルンからの留学生受け入れも予定しており、より多様な国・地域との交流を通じて、グローバル人材の育成をいっそう推進していきたい。
5 校務の合理化	学校行事の円滑な運営	感染症の感染対策を継続し、学校行事を運営している。	安全かつ合理的に学校行事を運営する。	早期に緻密な計画を立てるよう努める。	A	安全に学校行事を運営している。
	円滑で正確な入学試験事務の実施	Web出願の導入により入学手続きまでの状況が確認しやすくなった。	より合理的な入学試験事務作業の方法を構築する。	スケジュールを把握し、担当者間の連携に努める。	A	入試時期ではないが計画的に準備を進めている。
評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：まだ不十分 D：目標・方策の見直し						

評価基準　A：十分達成　B：概ね達成　C：まだ不十分　D：目標・方策の見直し